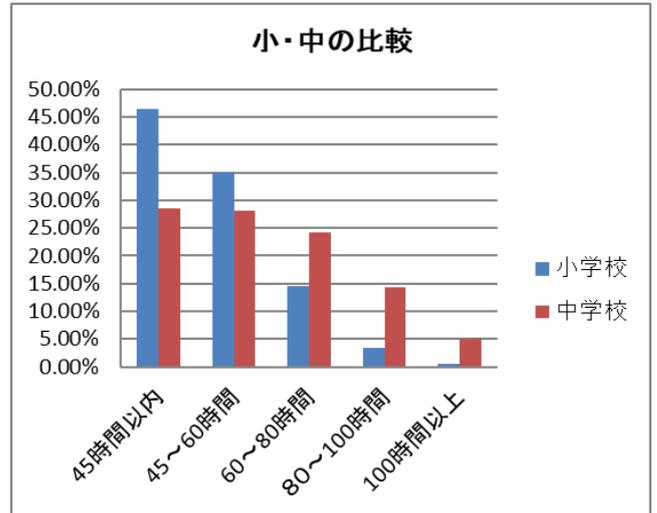
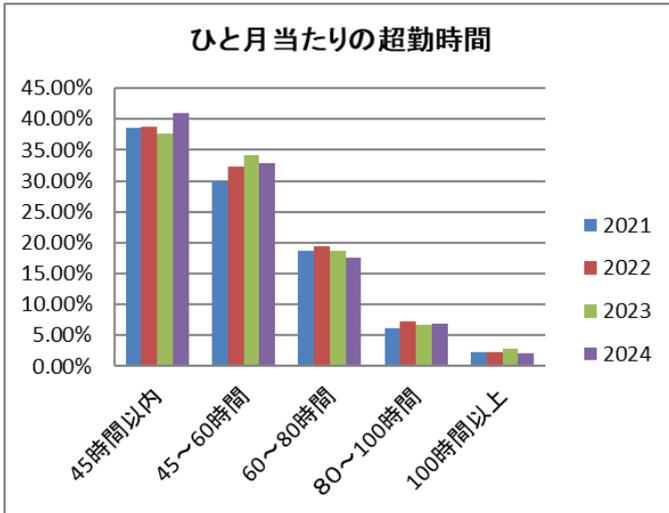


働きやすい職場づくりアンケートより

2024 熊本県教職員組合 その1

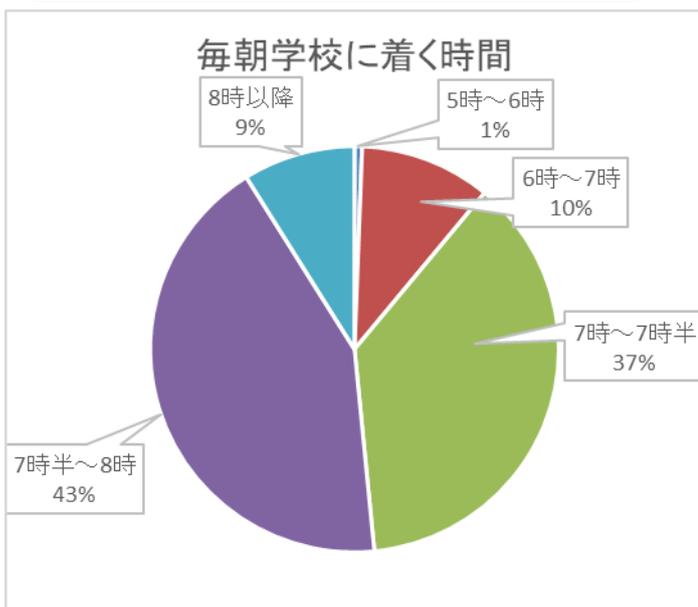
熊本県教職員組合では今年もアンケートを実施し、2471名もの方に回答を寄せていただきました。ご協力ありがとうございます。おもな結果をご報告させていただきます。

月当たりの時間外45時間以内 小中に大きなひらき



全体としては時間外 45 時間以内が 3%増えた結果となっています。しかし、小学校 46.5%に対し中学校では 28.6%で両者の間には 20%近い開きがあります。また、過労死の危険がある 80 時間以上についても小学校では 4%に対して中学校では 19.3%と高い数字になっています。部活動の地域移行を早急に進める必要があります。

早朝化する出勤時間



約半数の人が朝の 7 時 30 分までには学校に来ています。朝 7 時以前に出勤している人が 11%もいます。その中で 15 人の人は午前 5 時台ということでした。「夕方遅くまで残れないから」「朝の方が仕事のはかどるから」「朝の渋滞に巻き込まれたくないから」などという理由があるのでしょうか、その時間に学校に着くということは家を出る時間はまだ真っ暗ということも多々あるのではないのでしょうか。朝一番に学校に来てひと仕事してからいったん家に戻り、子どもさんの支度をして保育園に届け、二度目の出勤をするという方もいました。私たちの一日当たりの勤務時間は 7 時間 45 分と条例で定められています。服務監督権者である市町村教育委員会はそれを守る義務があります。その義務を果たすためには業務量を減らすしかないのです。

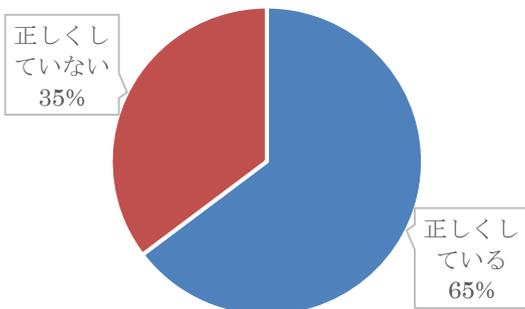
熊本県教職員組合は熊本県教育委員会と毎年 4 回の勤務時間適正化協議を行い長時間労働の課題解決に向けいっしょにとりくんでいます。また、服務監督権者である市町村教育委員会とも毎年交渉を行い改善を図っています。学校訪問の内容の簡素化や、初任者の教育論文提出負担の削減、研究指定の削減・廃止、留守番電話の設置など多岐にわたって改善されてきました。今後も当局との協議や交渉をすすめ、実感の持てる負担軽減を進めていきます。

働きやすい職場づくりアンケートより

2024 熊本県教職員組合 その2

その1 に続いてアンケート結果を報告します。

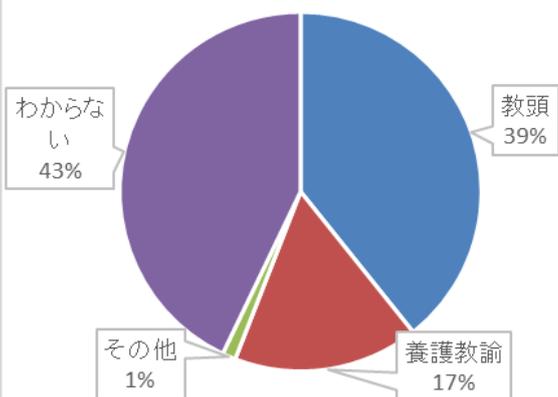
正しい在校等時間の記録



法律に基づいた労働安全衛生体制の確立を！

休日に出勤して時間を記録しなかったり、部活動の時間を記録しなかったりなど正しい在校等時間の記録が行われていません。今年も4割弱の人が正しい記録をしていないと答えています。理由は「45時間を超えてしまうから」「みんなが記録していないから」「管理職が休日も記録してとわないから」「めんどくさいから」「面談がいやだから」など例年と同様でした。上限規制条例に沿って正しく記録すべきです。管理職は正しく記録していない実態を見過ごしてはいけません。市町村教育委員会はそれを監督する責任があります。

衛生管理者/推進者



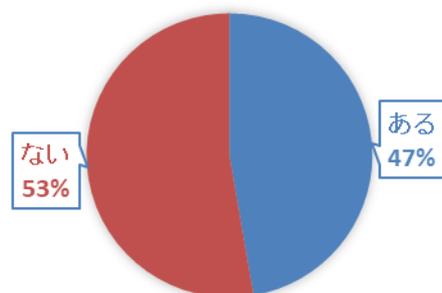
また「あなたの学校の衛生管理者（推進者）は誰ですか？」と問われて「わからない」という人が今年も43%いました。毎回同程度の結果です。前出の正しくない在校等時間の記録の数字とも毎回同程度で推移しています。これは、学校における労働安全衛生が進んでいないことの表れです。校長の指名により職場環境の改善を中心になって行い、職員の健康増進をすすめるべき衛生管理者（推進者）の姿が見えていない人が4割もいるということなのです。病気休職者に占める精神疾患の割合の高さが続いている原因のひとつはここにあると思います。

熊本県教職員組合は市町村教育委員会に対して衛生管理者（推進者）が目に見えて活躍し、業務削減など労働安全衛生につながるとりくみを進めるよう求めていきます。

学校外業務の朝の登校指導に47%が携わる

文科省が学校外業務の一つとして分類した朝の登校指導に熊本県では半数近くの教職員が携わっていることが判明しました。2023年に文科省が市町村教育委員会に対して行った調査では熊本県内44市町村（熊本市を除く）のうち36市町村が学校外業務にしていると回答していたのです。学校には教員の本来業務でないものが多すぎます。私たちは教材研究や授業準備、子どもの話をじっくり聞くことに時間をいっぱい使わせてほしいのです。ただそれだけなのです。

朝の登校指導



本来学校は楽しいところです。友だちがいて、楽しく学び、元気に遊ぶ。先生たちも子どもたちの成長を保護者と共に喜びながら働いています。長時間労働をなくし、本来の学校の姿に戻れば、きっと学校で働きたい人も増えます。その実現のためこれからもいっしょに考え行動していきましょう。